

為替週間展望 = ドル円は軟調な推移が継続か

[12月5日からの1週間の展望]

週間高低 (カッコ内は日)		11月28日～12月2日			
	始値	高値	安値	終値	前週比
ドル・円	139.21	139.89(30)	135.01(2)	135.04	-4.15
ユーロ・ドル	1.0402	1.0539(2)	1.0291(30)	1.0535	+0.0140
=====					
国内株・金利/米国株・金利					
	終値	前週末比	終値	前週末比	
日経平均株価	27,777.90	-505.13	日本10年債利回り	0.259	+0.005
ダウ平均株価	34,395.01	+47.98	米10年債利回り	3.505	-0.173
=====					

<来週の主要経済統計等>

- 5日 独11月製造業PMI確報値、ユーロ圏11月製造業PMI確報値
英11月非製造業PMI確報値
ユーロ圏10月小売売上高
米11月サービス業PMI確報値
米11月ISM非製造業景況指数、米10月製造業受注
ユーロ圏財務相会合
- 6日 日本10月勤労者世帯家計調査
豪第3四半期経常収支
豪中銀(RBA)政策金利
独10月製造業受注指数
米10月貿易収支
カナダ10月貿易収支
米ジョージア州上院選の決選投票
EU財務相理事会
- 7日 豪第3四半期GDP
中国11月貿易収支
日本10月景気動向指数速報値
スイス11月雇用統計
独10月鉱工業生産指数
ユーロ圏第3四半期GDP確報値
米第3四半期非農業部門労働生産性指数
カナダ銀行(BOC)政策金利
- 8日 日本10月貿易収支
日本第3四半期GDP2次速報
豪10月貿易収支
米新規失業保険申請件数
カナダ11月Ivey購買部協会指数
- 9日 中国11月消費者物価指数、中国11月生産者物価指数
米11月生産者物価指数
米12月ミシガン大学消費者信頼感指数速報値

【前回のレビュー】ブラード総裁やコリンズ総裁のタカ派的なコメントの後でもドル円は142円台前半までの上昇にとどまった。12月の会合以降の利上げペースの減速観測が重石となって、ドル円は上値の重い展開になるとした。

【パウエル議長の講演を受けてドル売り円買いに】

11月28日の週のドル円は、週の前半は140円手前の水準でのみみ合いが続い

た。30日の米連邦準備制度理事会（FRB）のパウエル議長の講演、1日の11月の米ISM製造業景況指数、2日の米雇用統計などを控えて上下に振幅するものの、方向感のない動きが続いた。

こうした中、11月30日の講演でパウエルFRB議長は、利上げペースを緩める時期が「早ければ12月の会合で来る可能性がある」との見解を示した。また、「政策金利がインフレを抑制するのに十分な水準に近づけば、利上げペースを減速するのは理にかなっている」と述べた。一方で、「歴史は早まった利下げを戒めている」と利下げ期待をけん制した。

また、ターミナルレート（利上げの最終到達点）は9月見通しの4.6%から「いくらか高くする必要がある」との認識を示した。インフレ率が低下していることを確認するには、「実質的な証拠が必要だ」とも述べた。景気に関しては、「ソフトランディングの可能性は十分にある」との見解を示した。

30日のパウエル議長の講演を受けて、ドル売り円買いの動きに傾いた。ドル円は11月30日に138円割れまで下落、12月1日には135円台前半まで下落した。ドル売りの動きを受けて、ユーロドルやポンドドルは上昇している。

CME FEDウォッチによると、12月の米連邦公開市場委員会（FOMC）での0.50%の利上げ確率は78%前後、0.75%の利上げ確率は21%前後となっている。パウエル議長の講演を受けて、0.50%の利上げとの見方が強まった。

11月の米ISM製造業景況指数は49.0となり、事前予想の49.7や前回の50.2を下回った。好不況の境目とされる50を割り込んできた。また、10月の個人消費支出（PCE）デフレーターは前月比+0.2%となった。事前予想の+0.3%を下回るとともに、前回の+0.5%を下回ったことで、インフレが徐々に落ち着きつつあることが示された。こうした経済指標の鈍化もドル売りの動きにつながっている。

FRBによる12月会合での利上げ幅は、今後の経済指標の結果に左右される可能性はあるものの、利上げ幅は0.50%にとどまる可能性が高い。FRBの利上げペース減速が材料視される中、ドル円は軟調な推移が続くとみられる。ドル円の目先の予想レンジは、131.00～140.00円。

今後の日米の経済指標やイベントとしては、5日に米11月サービス業PMI確報値、米11月ISM非製造業景況指数、米10月製造業受注、6日に日本10月勤労者世帯家計調査、米10月貿易収支、7日に日本10月景気動向指数速報値、米第3四半期非農業部門労働生産性指数、8日に日本10月貿易収支、日本第3四半期GDP2次速報、米新規失業保険申請件数、9日に米11月生産者物価指数、米12月ミシガン大学消費者信頼感指数速報値などがある。

【ユーロドルは堅調な推移か】

11月28日に欧州中央銀行（ECB）のラガルド総裁は「インフレがピークに達したと判断するには不確実性が高い」と述べた。また、「一段の利上げを見込んでいる」「追加利上げを想定しており、利上げ幅はデータ次第で会合ごとに決定する」と述べている。

11月30日発表の11月のユーロ圏消費者物価指数速報値は前月比-0.1%と予想の+0.1%や前回の+1.5%を下回った。前年比は+10.0%と高水準ながら、予想の+10.4%、前回の+10.6%を下回った。コア前年比は+5.0%となり、予想の+4.9%を上回り、前回からは横ばいだった。

ユーロ圏での高いインフレ率を抑制するためにECBは利上げを継続する姿勢を示しており、ユーロドルの下値を支えとみられる。また、30日のパウエル議長の講演を受けて、12月のFOMCでの利上げペース減速期待が高まり、ドル売りの動きに傾いている。ユーロドルは200日移動平均線を回復してきており、堅調な推移が見込まれる。ユーロドルの目先の予想レンジは、1.0250～1.0700ドル。

日米以外の今後の経済指標やイベントは、5日に独11月製造業PMI確報値、ユー

□圏 1 1 月製造業 P M I 確報値、英 1 1 月非製造業 P M I 確報値、ユーロ圏 1 0 月小売売上高、6 日に豪第 3 四半期経常収支、豪中銀（R B A）政策金利、独 1 0 月製造業受注指数、カナダ 1 0 月貿易収支、7 日に豪第 3 四半期 G D P、中国 1 1 月貿易収支、スイス 1 1 月雇用統計、独 1 0 月鉱工業生産指数、ユーロ圏第 3 四半期 G D P 確報値、カナダ銀行（B O C）政策金利、8 日に豪 1 0 月貿易収支、カナダ 1 1 月 I V E Y 購買部協会指数、9 日に中国 1 1 月消費者物価指数、中国 1 1 月生産者物価指数などがある。

MINKABU PRESS 佐藤昌彦

※投資や売買についての判断は自己責任でお願いします。

<免責事項>

本レポートは情報の提供のみを目的としています。投資に関する最終判断はご自身の責任においておこなわれるようお願いいたします。また本レポートに掲載している情報の正確性については万全を期しておりますが、人為的、機械的その他何らかの理由により誤りがある可能性があり、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドは、利用者がこれらの情報を用いて行う判断の一切について責任を負うものではありません。また、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドが提供するすべての情報について、許可なく転用・転載等することを固く禁じます。

<著作権について>

本レポートの著作権は、原則として当社(株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイド)が保有しており、著作権法、その他の法律および条約により保護されています。本レポートご利用のお客様は、私的使用目的の複製、引用等著作権法上認められている範囲を除き、当社およびその他著作権者の許諾なく、これらの著作物を翻案、公衆送信、営利を目的とする使用等いかなる目的、態様においても利用することはできません。